

保育施設 基本情報

園・施設名	社会福祉法人ゆうゆう 日暮里保育園
経営主体	社会福祉法人ゆうゆう
所在地	〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 2-2-7
定員	150 人 0 歳児 12 名 1 歳児 22 名 2 歳児 26 名 3 歳児～5 歳児各 30 名
理事長名	矢巻 行祥
園長名	横井 美保子
採用担当者	川又恭子（法人本部）
電話番号	03-5604-9367
保育理念 保育方針 保育目標	<p>保育理念：～人づくり～</p> <p>素朴に純真に忍耐強く、子どもを軸として運動する絆を結び、未来社会への人づくり、国づくりの基礎（基盤）力を育む</p> <p>保育園は、「働く親の為」というだけの安易な場所ではありません。保育園は、「愛されている確信を一人ひとりの子どもが感じ、安心して充実した日々を過ごし、生きる力をつけ、社会に希望と夢を持っていく支え育てていく場所」です。</p> <p>未来の社会を担う子ども一人ひとりが大切にされる社会を私たち大人が目指し支えられ育った子ども達が同じように続けていけるようにこの地域で存続させます。地域の中で愛され地域と共に社会を築いていく場所であり続けるために子どもを通した幸せの輪を感じながら、自らの成長と共に・・・</p> <p>保育（教育）目標：ONE FOR ALL ALL FOR ONE</p> <p>ひとりみんなのために、みんなはひとりのために…思いやりのある子ども、意欲のある子ども、生活の中で決まりの守れる子ども</p> <p>さまざまな保育・教育が各園で行われていますが、当園は、既存の概念の枠にとらわれることなく保育者と子どもとの信頼関係を基盤とし、子どもの自由な遊びを通して、感性・表現力・社会性を育てます。「人は人の中でこそ人として育つ」ことを理解し、子どもを取り巻く人的環境（職員・保護者・地域）に重点を置きます。人を大切にし、人に支えられる中で生きていることを感じ、相手を理解し、自らを信じる心の基礎を作ることを目標とします。『人を愛せる人』は『人に愛された人』です。社会の中で多くの人に愛される心の基礎は、今、身に付ける必要があります。</p>
保育環境	<p>園庭には大きな榊と桜の木があり、泥んこ遊び、水遊びができ、五感で自然を感じることができます。</p> <p>園庭を囲むように 2 階建ての園舎があります。室内でも光と風が通り、ゆったりと過ごすことができる広い園舎です。</p> <p>各クラスの前には広縁があり、どこからでも園庭で遊んでいる様子を見ることが出来ます。</p>
ホームページURL	<a href="https://yuuyuu-social.com/">https://yuuyuu-social.com/</a>
事前質問	<p>《保育の質》についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>保育者の専門性の確立と向上を脇に置いたまま「保育の質」の確保は難しいと考えています。みなさんは、今回、どうしてこの質問を考えたのでしょうか？ぜひ、その点についても考えを聞かせていただきたいです。保育士資格が国家資格となり、保育者の専門性が問われるようになりました。保育者の専門性は目の前の子どもの姿を多面的にとらえ、その時々の子どもにとってよりよい関わりを考えることだと思いますが、その専門性が発揮できるためには、保育制度、条件（施設の最低基準、保育者の労働条件）も含めて検討しなくてはならないと思います。ですので、ぜひ、皆さんと現在の日本の保育制度、条件は果たして子どもの権利、働く者の権利を守るものになっているのか考えていきたいです。</p> <p>「“保育の質”の向上」のために取り組んでおられることについて、具体的にご紹介ください。</p> <p>保育の質は上記の考えにあるように“保育者の専門性”を明らかにすることだと思っています。日々、子どもと関わっている職員同士が自分はどうの考えで子どもたちや保護者に関わっているか、その考えや思い、願いを伝え合える職場にしたいと考え、開園 2 年目から職員会議（月 1 回）の内容を変えました。具体的には毎月テーマを決めテーマに基づいた自分の考えや子どもの姿、関わりを書き、その内容をもとにグループ討議を行っています。加えて自分たちが行っている保育を客観的にとらえ発信しているように保育実践記録に取り組み、具体的な子どもとの関り、自分の想いを記録したものをもとに各クラスで討議し、2カ月ごとに大学の研究者から助言をいただき保育に活かしているよう学んでいます。</p> <p>学生の就活において「職員同士の“人間関係”」が重視されていることについて、お考えをお聞かせください。</p> <p>保育という仕事は子どもと向き合うとともに自分自身とも向き合わなければならない仕事だと思います。子どもと関わる時、必ず自分の考えが反映されます。加えて一人で行う仕事ではなく、常に職員同士で関わり合って行かなければならない仕事でもあります。目の前の子どもにとって最善の利益となるように保育をすすめていくためには、お互いの考えを伝え合える公平性のある人間関係が求められるのだと思います。</p> <p>乳幼児期における「子どもと保育者の望ましい関係」についてのお考えをお聞かせください。</p> <p>また、そのような関係を築く上で大切にしていること、実践していることを具体的にお教えください。</p> <p>たとえどんなに小さくとも一人の人格をもった人間として関わるということが基本です。そして保育園という場で共に生活を営んでいく者同士、お互いの願いをもとに協力し合う関係でありたいと思います。具体的には一人ひとりの思いを大切にしていきたいと考えています。毎日の生活や遊びの場面で自分の思いだけではなく相手や生活時間との関係で折り合いをつけなければならない場面がたくさんあります。できるだけ時間のゆとりをもって自分自身で折り合いをつけられるように周りの大人同士の協力関係が大切だと思っています。</p> <p>生活習慣の自立に向けた援助や関わりで大切にしていることについて、簡単な事例を基にご紹介ください。</p> <p>年長クラスの担任からこの一年で取り組んできたことの一例です。就学に向けて自分の身の回りのこと（登降園時の支度、ハンカチやマスクの取り扱い方等）を自分でできるようにすることがあります。決まった場所に片付ける、衛生面に考慮しなければいけないことがあります。子どもたちに“こうすること”と大人の側から伝えるのではなく、「どうしてそのようにするのか」その理由をもとに「どのようすることがやりやすいのか」を子どもと一緒に考え、クラスの約束ごととして取り組んでいます。</p>
学生へのメッセージ	<p>大学で学んできたことから保育に対する理想や子どもたちとこんな活動をしてみたいと期待が膨らんできていると思います。同時に実習をし実際の保育現場の忙しさも目の当たりにし不安もよぎったのではないのでしょうか。私自身も就職先を決めるときに迷いました。時間がある限り園の保育内容がわかるもの（資料など）を探し、見学をして、保育をするためにこれだけは外せない自分の中の最低条件をつくりました。限られた時間と情報を有効に使い自分自身がそこで過ごしてみたいと思える職場と出会えることを祈っています。</p>